

H30年度 厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割の解明と
それによる患者ケアの向上
分担研究報告書

心療内科外来慢性疼痛患者における初診時の「過去の医療への信頼感の低さ」と
痛みの破局化の改善との関連

研究分担者 細井 昌子
九州大学病院 心療内科 診療准教授（講師）
同病院 集学的痛みセンター 副センター長

研究要旨

高度の破局化を有する慢性疼痛患者群 96 名に対する九州大学病院心療内科における通常外来治療と 6 か月後の予後において、初診時の心理社会的因子の特徴について検討した。痛みの破局化の“高値群”は痛み関連、情動関連、対人関連のいずれの変数においても、“低値群”に比し望ましくない結果だった。また、“高値群”においても、通常治療により 6 か月後に破局化の有意な改善を認めた。外来治療による痛みの破局化の“著明改善群”は“低改善群”に比べ、初診時の「過去の医療への信頼感」が有意に低かった。その他の初診時の変数においては両群において有意な差は認められなかった。過去の医療に対する不信という中枢性の因子を治療対象にすることにより、痛みの予後が影響する可能性がある。

A．研究目的

慢性疼痛患者において痛みの破局化は、痛みの強さ、痛みによる生活障害、抑うつなどの重症度との関連が指摘されており、破局化の軽減は、治療上重要な目標となっている。しかし、破局化の軽減を予測する因子については十分に検討されていない。今回我々は、高度の破局化を有する慢性疼痛患者群に対する心療内科における通常外来治療において、破局化の大きな軽減が見られた患者群の初診時の心理社会的因子の特徴について検討した。

B．研究方法

対象は九州大学病院心療内科の外来を受診し、その後、外来治療を継続した慢性疼痛患者 96 名のうち、初診時の痛みの破局化（Pain Catastrophizing Scale：PCS）が高値（平均値以上）であった患者 46 名を“PCS 高値群”とし、これを解析の対象とした。初診時に文書で研究参加の承諾を得た。6 か月後にも PCS を測定し、治療により著明に PCS が改善した“著明改善群”（1SD 以上の改善）とその他の“低改善群”に分けた。“著明改善群”の治療開始前の特徴を明らかにするために、両群において初診時の痛みの強さ、痛みによる生活障害、痛みの受容、抑うつ・不安、失感情傾向、愛着スタイル、医療への信頼感について比較した。

（倫理面への配慮）

対象者には研究の説明を文書で行い、文書で同意を得た。

C．研究結果

痛みの破局化の“高値群”は痛み関連、情動関連、対人関連のいずれの変数においても、“低値群”に比し望ましくない結果だった。また、“高値群”においても、通常治療により破局化の有意な改善を認めた。外来治療による痛みの破局化の“著明改善群”は“低改善群”に比べ、初診時の「過去の医療への信頼感」が有意に低かった。その他の初診時の変数においては両群において有意な差は認められなかった。

D．考察

慢性の痛みの治療を受ける経過の中で、医療に対する信頼が低下し、その結果、強い破局化をきたしている患者群は、心療内科の治療初期において、信頼感のある治療関係を構築することで、痛みの破局化が著明に改善していた可能性がある。

E．結論

痛みの破局化の強い慢性疼痛患者において、心療内科外来治療で著明に破局化が改善された群は、初診時に過去の「医療への信頼感」

が低い傾向にあった。過去の医療に対する不信という中枢性の因子を治療対象にすることにより、痛みの予後が影響する可能性がある。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 細井昌子・慢性疼痛難治例に対する段階的心身医学的治療 愛着・認知・情動・行動障害の観点からのアプローチ ・心身医学・2018・第58巻第5号(404-410)
- 2) 細井昌子・慢性疼痛に対する心身医学的アプローチ 「心の安全基地」を創造する段階的戦略 ・保健の科学・2018・第60巻第11号(733-737)
- 3) 扇谷昌宏、細井昌子、加藤隆弘・線維筋痛症のトランスレーショナル研究：ミクログリア過剰活性化とTNF- α ・日本臨牀・2018・第76巻第11号(1937-1942)
- 4) 細井昌子・線維筋痛症患者の心理社会的ストレス：日本におけるナラティブアプローチからのキーワード・日本臨牀・2018・第76巻第11号(1999-2006)
- 5) 細井昌子・非器質的疼痛に対する薬物療法の実践と工夫：心身医療の観点から・薬局・2018・第69巻第12号(29-32)

2. 学会発表

- 1) 細井昌子、安野広三、柴田舞欧、藤本晃嗣、村上匡史、日高 大、早木千絵、村橋明子、須藤信行・痛みの行動科学に影響を及ぼす養育環境：父と息子の葛藤・第40回日本疼痛学会(シンポジウム)、長崎、2018.6.16
- 2) 細井昌子・慢性疼痛難治例の心身医学的特徴：愛着障害の観点から・第23回 日本ペイ

ンリハビリテーション学会学術大会(シンポジウム) 福岡、2018.9.22

- 3) 細井昌子・線維筋痛症とミクログリア異常仮説：心療内科のナラティブからエビデンスの確立・日本線維筋痛症学会 第10回学術集会(シンポジウム) 東京、2018.9.29
- 4) 細井昌子、扇谷昌宏、加藤隆弘・線維筋痛症と中枢ミクログリア異常仮説：誘導ミクログリア細胞(iMG)による評価・第36回日本神経治療学会 学術集会(シンポジウム) 東京、2018.11.24
- 5) 細井昌子・慢性疼痛になって良かった！：慢性疼痛患者と家族に対する心療内科的アプローチの影響と醍醐味・第58回日本心身医学会九州地方会(シンポジウム) 鹿児島、2019.1.27
- 6) 橋本英信、安野広三、早木千絵、西原智恵、田中 佑、須藤信行、細井昌子・失体感症と慢性疼痛に関する研究 心療内科外来患者における検討 ・第48回日本慢性疼痛学会、岐阜、2019.2.15
- 7) 田中佑、安野広三、早木千絵、西原智恵、柴田舞欧、岩城理恵、須藤信行、細井昌子・心療内科初診時の過去の医療への信頼感の低さは慢性疼痛患者における痛みの破局化の改善を予測する・第48回日本慢性疼痛学会、岐阜、2019.2.15

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

研究協力者

九州大学病院 心療内科

田中 佑、橋本英信、安野広三、早木千
絵、村橋明子、西原智恵、須藤信行

